

⑩
⑪

自昭和十九年二月二十三日
至昭和十九年五月十四日

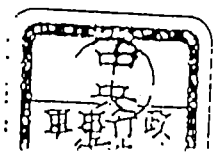
ガンタクトルース患者療

レインゴ

第十六師団第二野戰

防衛研究所図書館

第二半刻



調製官 陸軍監醫中尉 福田正男(福田)

一患者療養所一飛行動

部隊の著作命第四二號ニ基キ系作命第七二號ニ依ル人員材料ヲ以テ二月二十三日ヲクナ州「サンタクルース」所ニ到リ同地「ラグナ州」文病院内ニ開設中、第二十師團衛生隊ヨリ收容患者十七名並同隊療養所施設ヲ引續キ患者療養所ヲ開設シラグナ州一帯ニ警備ヲ任ズル諸部隊ノ發生患者ヲ治療後送送シ同地區一級衛生指導ニ任ジシヤリシガ師團轉進ニ伴ヒ五月九日著作命第五五號ニ依リ當患者療養所ヲ閉鎖命令ヲ受ケ直チニ交代準備ヲシテ五月十四日十四時第十六師團衛生隊交代要員到着ト同時ニ收容患者十八名(内單人軍屬外患者一名ヲ含ム)及同收容諸施設ヲ引續キ患者療養所ヲ閉鎖シ翌十五日人員並材料ト共ニ本師團ニ復歸ス

二月二十三日

所長等二十名並ニ諸材料ヲ以テ同地ニ開設中ノ衛生隊ト收容患者並ニ同隊要員

陸軍監醫中尉 福田正男

一、八、疥癬濕疹熱帶潰瘍等ニテ各性状應シ硫黃溶劑ニ依リ温浴ヲ施セル
後ニテアル軟膏硫黃軟膏瘡創膏又ハ糊軟膏等ハ貼用シチカトル塗布
等ヲ行リ挫傷患者ハイニチアル酒精塗布コロ液發法等ヲ施行シ骨折
患者ニ對テ何レモ創木ニ依リ固定セリ「繃帶ヲ施行セリ

三、花柳病

花柳病患者ハ依然減少ヲ見ス但疾病ニ比シ難患率大ナリ之ガ傳染源除去爲
慰婦人検査ヲ嚴密ニ一般兵費ノ個人衛生徹底ヲ期シ難患絶滅ニ努力セリ
其ノ大部ヲ示ス淋疾ニ對テハネオフロントチル 筋注「レギオン」トリハロミン、靜注「ホル
ミン」劑、衝擊療法等ヲ行ヒ口五ニ「ワダ」フロタルゴールニ「%」硝酸水液漸
進的尿道凍結ヲ長期重リ施行シ第四性病ハ專ラ「スル」シ劑、衝擊内服ニ依リ
根絶ヲ計リ破性下疳ハ「バル」チン劑注射ヲ行ヒ硬軟下疳性潰瘍ハ燒灼「テル」マ
「ル」ヨ「ド」アルニ末撒布瘡創膏貼用等ヲ行ヒ前記疾患何レモ全治期ニ至ルハ診
發法ヲ施行檢血検査ヲ實施シ根絶ニ努ムナリ

本開設期間中於テハ赤痢患者ニ對シテ「サリ」チン劑注射ハ如シ

2、内科

本開設期間中内科疾患收容總數ハ三二名兼發シ合シニシテ之ガ主ナルモノハ細菌性赤
痢三、肺結核二、脚氣二、急性大腸炎三、マリアニ「デング」熱一、蛔蟲病二、濕性胸膜
炎二、カタル性黄痘一、急性咽喉炎一、グル「ブ」性肺炎一、急性扁桃腺炎二、腸病
一、左腹壁神經痛一、其他七名ナリ
主要疾病別治療状況左ノ如シ

一、マリアニ

本開設期間中ニ收容セルマリアニ患者ノ多クハ兼發ニシテマリアニ「據」ルハ僅少ナリ
何レモ「百熱」ニシテ重篤ナル者ヲ收容セシニ名中一名ハ治癒一名ハ轉送セリ
マリアニ患者ニシテ再發傾向大ナルモノニ對シテハ收容上都合「マ」リ後送依リ専門
的治療ヲ受ケシメナリ

二、赤痢性疾患

第十六師團衛生隊「リ」ヲ継グ赤痢患者ハ三名ニシテ内一名ハ治癒後体力恢復必
要ヲ認メカ「リ」ア「療養所」轉送セリ他二名ハ何レモ治癒傾向ニテリ現今銳

附表第四

自昭和十九年二月三日至昭和十九年五月十五日
 手術名簿

病名	手術時期	適應症	手術記事	歸隊階級	氏名
左中指並右中指 痲痺性膿瘍疹	一月二日 二月三日	疼痛	切開自新膿	釋送 一等 陸二	辻 春一
第四腰椎骨折	二月三日 二月五日	腰椎部 疼痛	ギブス固定	釋送 二等 陸二	鈴木逸二
左第六七胸椎骨折	二月三日 二月五日		絆創膏固定	釋送 大本 陸二	真村光雄
急性蜂咬炎	二月三日 二月五日	咽喉部 疼痛	消毒殺菌	釋送 一等 陸上	中林國雄
急性蜂咬炎	二月三日 二月五日	咽喉部 疼痛	消毒殺菌	釋送 一等 陸上	片田 薫